

演題：へき地における周産期医療とそのコンピテンシー

淀川キリスト教病院 産婦人科 柴田綾子

抄録本文：

本講演では、周産期・ウィメンズヘルス領域でどのような研究ができるかを提案する。

産婦人科医の減少により分娩の取り扱いを辞める医療機関は増加しており、特にへき地・離島においてプライマリ・ケア医による妊産婦ケアの必要性は高くなっている。へき地・離島においてプライマリ・ケア医が妊婦ケアをおこなう際の困難に関する質的研究から、プライマリ・ケアの認知度の低さ、研修機会の不足、研修目的の不明確さ、教育認定制度の不足、相談体制の不足、サポートする産科医の不足という6つの課題を認めた。これらから、今後の日本の周産期診療維持のために必要な研究ニーズを考察する。

後半は、演者の活動であるリプラ(リプロダクティブライツに関する情報発信：<https://reproductiverights.jp/>)から、日本と海外における性と生殖に関する医療保健システム(特に避妊・中絶・性教育)の違いやプライマリ・ケア医のかかわり方を紹介し、患者個人が持っている性と生殖に関する権利を支援するための研究ニーズを考察する。